

# 王城寺原演習場脇に放射能汚染物質 自衛隊も反対する最終処分場候補地

泉病院友の会北中山班は12月11日大和町吉田下原の放射能汚染物質最終処分場候補地を見学、案内は権現茶屋のご主人早坂富士夫さん。当日参加者は8名。

大和町の候補地は船形山登山客が行き来する県道のすぐ脇にあり、王城寺原演習場のフェンスに囲まれた地域です。過去に周囲に何回も誤爆弾が落下しており、処分場建設にはまったく不向きな場所。地元吉岡駐屯地の自衛隊関係者までも「演習の妨げになる」として反対署名運動を展開しています(署名趣意書は別紙紹介)。しかも常習地滑り地帯をすぐ上流に抱え、大雨や地震などによる土砂災害が繰り返し発生しています。放射能拡散がとて心配される場所です。

そもそも自衛隊関係者が反対署名に取り組むのですから、政府部内(環境省と防衛省)の合意形成がなされていない証拠です。

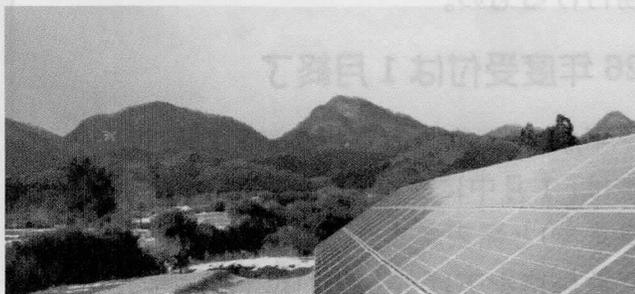
参加者一同、ずさんな候補地選びの実態を知り唖然。放射能拡散を阻止するため、隣接都市仙台市民も反対運動を強めようと心を新たにしました。地元の反対運動の中心になっている早坂さんも、「大和町の各部落の反応がにぶい。町の新しい住民や仙台の皆さんに訴えて行く作戦を強めている。今後もご支援よろしく」と強調しました。権現茶屋は大和町吉田三峯4番地、電話022-344-2661番です。おそばと岩魚の美味しい店です。



## 発電所設置希望次々と



小さき花放射線測定室石森秀彦さん(太白区)



七つ森発電所への併設案も(大和町)

NPOきらきら発電・市民共同発電所(準)  
〒981-3215 仙台市泉区北中山3-17-12 広幡方  
電話 022-379-3777 FAX 022-376-3888  
<http://kirakirahatuden.com/>  
きらきら発電ニュース第2号 2015年1月

## 固定価格買取制度改悪への対応

### まず1月20日までの申請急ぐ

NPOきらきら発電準備会では12月19日第1回役員会を開き、制度改悪への対応として1月20日までに最初の太陽光発電所の国への申請を行うべく、手続きを急ぐことにしました。

### 4月18日(土)午後学習会開催

またNPO発足の4月仙台市内で「自然エネルギー」の学習会を開催することを決定。学習会は4月18日(土)午後を予定し、講師選定に入ることにしました。

### 基金予約1700万円越える

3000万円目標の基金はさらに予約が増え、1700万円に到達しています。金デモの参加者から「私100万円協力します」という声も。協力の輪が広がっています。

# 安倍政権原発再稼働ごり押し

## 大間申請・高浜適合・自然エネ買取制限

年末の総選挙で三分の二の議席を維持した安倍政権は、矢継ぎ早に原発再稼働に向けた動きを示しました。まず12月16日、電源開発大間原発の審査申請を受理。12月17日には関西電力高浜原発3・4号機の再稼働を適合と判断。12月18日には民主党政権時代に作られた自然エネルギー買取制度改悪を発表。原発ゼロを求める国民の世論を無視し、原発再稼働ごり押し政策を進めることが鮮明になりました。



## 大間原発、フルMOX使用で危険

大間原発は全炉心でプルトニウム・ウラン混合燃料(MOX)を使う世界初の「フルMOX」。どの国も試験運転すらしたことのない危険な原発を、今まで原発を一度も動かしたことのない電源開発が平成21年度に動かすというのですから、驚きです。

同原発をめぐる30\*<sub>0</sub>圏内の函館市が昨年4月国と電源開発相手に、原子炉設置許可取り消しや建設差し止めを求める訴訟を東京地裁に起こしています。

## 規制委員会高浜原発再稼働ありき

原子力規制委員会は高浜原発3・4号機の審査を終了、適合と判断し30日間の意見募集を決めました。規制委の適合判断は九州電力川内原発1・2号機に次いで2件目。

規制委員会高浜原発審査書案は事故対策・避難計画・活断層の検討がないまま出されたもので、再稼働ありきの不当な決定です。

マスコミは、今年行われる一斉地方選挙にもからみ、また30\*<sub>0</sub>圏内に京都府も入ることから、関係する県や市町村の判断は大きく遅れるだろうと予想しています。

**NPOきらきら発電・市民共同発電所(準)**  
2015年初回役員会は1月30日(金)午後5時  
場所=仙台市太白区長町3-7-26、長町病院内  
会員の方はお気軽に参加下さい。参加希望者は  
事務局に前もって電話をお願いします。

## 自然エネルギー発電制約し 原発再稼働の道ひたすらに

昨年12月18日資源エネルギー庁が発表した「固定価格買取制度の見直し」案は、日本の原発全てを再稼働させることを前提に、自然エネルギー発電の電気買取量を制限するもの。

## 出力制御の対象・期間を拡大

制限内容は、これまで500kw以上が対象だった出力制御を太陽光家庭用発電にまで拡大。期間もこれまでの30日から360時間(1日4時間換算で90日)に変更し、遠隔制御出来るパワコン設置まで義務付けるもの。

## 26年度受付は1月終了

平成26年度の固定価格買取制度設備認定は、1月中に受付締め切り(実質1月20日まで)と発表。また27年度については買取価格を下げると公表しています。

## 対象は太陽光発電にしぼる

資源エネルギー庁の今回の改悪案は、太陽光発電に絞った内容です。地熱発電・水力発電・風力発電については、具体的規制は盛り込まれていません。